

# ふかふかのベッド



「ほら、これたべてみて、りんごグミ」  
友達の手のひらには赤いグミ。  
「わあ、ありがとう！」きみは、その手  
からひよいとグミをとって口に入れてま  
した。そのしゅんかん…！」

「すっぱあいー」

じつは、いたずら好きの友達はきみをだ  
まそうとすっぱい『うめぼしグミ』をわ  
たしたんだ！友達は「大成功！」と、け  
らから笑います。そして笑い終わると、  
今度は袋から緑色のグミをとりだしてき  
みに渡します。

「ごめんね。こっちはすっぱくないよ。」

一度うそをつかれたら「今度はすっぱく  
ない」と言われても、「きつと、次もま  
たすっぱいかもしれない」とうたがっ  
ちやうよね。

「だまされるされるかもしれない…」、「ほ  
くのことすきじゃないのかも…」。  
そんな、「うたがうところ」があると、  
どんだんかなしくなるし、安心もなく  
なってしまう。

でもこんな場合はどうだろう。

きみは木登りに夢になるあまり、とて  
も高いところまで登ってしまい、ついに  
ひとりではおられなくなった。

こまっているきみのもとに、お父さんが  
来てこう言った。

「下で受けとめてあげるから、思い切っ  
てとびおれてごらん。」

「本当に受けとめてくれるかな…」

きみはそう思いながらも、勇気を出して  
とびおれてみると…、お父さんはみごと  
にきみをキャッチしてくれました。

お父さんの大きなうでのなかで、きみの  
心には「次におなじことがあっても、お  
父さんがきつと助けてくれる」という「し  
んらい」の気持ちがわいてくる。

「うたがよい」とはちがって、「しんらい」  
はぼくたちをふかふかのベッドでねてい  
るような安心した気持ちにさせます。

「ぼくは大切にされている」「こまったと  
きにはたすけてもらえる」、そういう安  
心があれば、いつも元気でいられます。

この世界を造った神さまは、「いつもき  
みのそばにいるよ」「たいへんな時には  
たすけてあげるよ」とぼくたちにおしえ  
てくれます。

じつは、神さまはお父さんのようにぼく  
たちをとて大切に思っているのです。

神さまはある日、アブラハムというおじ  
いさんにこう呼びかけました。「あなた  
にすばらしいプレゼントをあげたいか  
ら、家をでて旅をしなさい」

家をでることは勇気がひつようでした  
が、アブラハムは神さまのことばをしん  
らいしました。そして、木からとびお  
りするような思いで長い長い旅にでたので  
す。

そんな神さまは今日、このお話をとおし  
てきみに、「わたしがきみを愛している  
ことを知ってほしい」と呼びかけてくれ  
ています。

アブラハムがそうしたように、きみも、  
「大切におもっているよ」、「いつでも守っ  
てあげるよ」という、神さまのことばを  
しんらいしてみないかい？

神さまのことばをしんらいするひとは、  
『ふかふかのベッド』にいるときのように、  
いつも安心していられます。

## せいしよ

おとなのひとに  
よんでもらおう！

- 創世記 12 章 1～5 節、15 章 5～6 節
- 詩篇 91 篇 2～9 節
- イザヤ書 28 章 16 節
- エレミヤ書 29 章 11 節
- ローマ人への手紙 10 章 11 節
- テトスへの手紙 1 章 2 節
- ヘブル人への手紙 11 章 1 節、8～16 節

せいしょ い かた しんらい もの  
聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、  
だれも失望させられることがない。」 じん てがみ しょう せつ  
ローマ人への手紙 10章 11節

※「このかた」とは、かみさま、イエスさまのことです。「しんらい」は、しんじてたよること、「しつぼう」はがっかりすることです。



おじいさんのなまえ ○ ○ ○ ○ ○ さん